

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年9月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3171400470
法人名	社会医療法人仁厚会
事業所名	グループホームほうじょう
所在地	鳥取県東伯郡北栄町土下123-1 (電話) 0858-36-5220

評価機関名	社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5
訪問調査日	平成21年8月25日

## 【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2人, 常勤換算 10人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1階	~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 900円			

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会医療法人仁厚会 藤井政雄記念病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人保健施設と併設という利点が活かされ、医療面での協力体制、運営面での応援体制、研修体制が充実しています。また、町の健康福祉センターが隣接しており、連携も図られています。  
「みやこ村」「れんげ村」の2ユニットに分かれ、「そのひとらしい」生活を実現するために、それぞれで「住民集会」が開かれ、利用者の声を活かしたケアが提供されています。  
職員はゆったりと穏やかな態度で介護が実践され、利用者の表情も明るく生き生きとしています。  
また、地元の行事(運動会、夏祭り等)へ参加するとともに、地域全体での火災予防合同訓練が行われるなど、交流のみならず地域のひとつの家として地域に溶け込むよう努力されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義をよく理解し、自己評価に取り組まれています。また、法人での内部評価も含めた改善計画を作成し取り組みがされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、利用者代表者、家族代表、自治会長、老人クラブ代表、民生委員等の出席があり、前回会議で取り上げられた検討事項の経過報告やグループホームの現状・懸案事項について話し合い、サービス向上に取り組まれています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の意見は、ユニットごとに利用者と関係者が話し合う「住民集会」で話し合われており、家族の意見については、家族会やアンケートにて意見等を把握し、改善に努められています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元の祭りや運動会、文化祭など利用者・職員一緒に参加されています。また、併設の老人保健施設で地元の方が開かれる読み語りやパッチワークのサークルや喫茶などに、グループホームの利用者も参加するなどの交流があります。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解し、「そのひとらしい生活の継続」を目指した理念がつけられています。基本的な考え方として、「個の尊重・安らぎのある生活」「自分らしい生活の継続」「地域の中での暮らし」が掲げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝のミーティングや申し送りで、理念を確認されています。ケアの実践においては、利用者がどう暮らすことが良いのかを一番に考えることを大切にされています。地域との関わりについて、職員自ら積極的に取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りや運動会、文化祭などに利用者・職員一緒に参加されています。また、地域の読み語りボランティアの訪問や、併設施設での喫茶に参加されるなどの交流が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員がサービス評価の意義や目的を理解し、自己評価に取り組まれています。また、法人での内部評価の実施もあり、外部評価の結果と併せて、改善計画を作成し、それに基づいて改善に取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、利用者代表、家族代表、自治会長、老人クラブ代表、民生委員等で構成されており、前回会議で取り上げられた検討事項の経過報告やグループホームの現状・懸案事項について話し合い、サービス向上に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の健康福祉課・地域包括支援センターと隣接している利点を活かし、事業所の実情やケアの取り組みについて話し合わせ、サービス向上に向け取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報誌を発行し、行事や予定、職員の異動等報告をされています。また、広報誌の中で、利用者や家族に対して、金銭管理の現状や利用者の状況について、個別に手書きで明記されています。面会時、通院時にも、その都度報告をされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族及び利用者の意見は、利用者と関係者が話し合う「住民集会」を中心として話し合われております。家族会やその際のアンケートで意見や苦情を把握されています。また、結果については、ホーム内の掲示や広報誌により公表されており、改善に取り組まれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係づくりを大切にされ、配慮されています。異動の際には、ダメージが最低限になるように努め、新しい職員が入る場合にも、他の職員のフォローにより、利用者へのダメージを防ぐようにされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育研修計画に基づき、階層別・職種別等に区分され、内部研修や外部研修を受講できるように配慮されています。参加した研修内容については、伝達研修で他職員にも報告がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会中四国ブロックの事例発表や年一回の同業者との相互研修や近隣のグループホームとの交流を通して、グループホーム間のケア向上に努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の見学や体験利用、ショートステイなどの機会が設けられ、事業所に馴染めるような工夫がされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑仕事など本人が主体となり実施され、職員と本人が学んだり、支えあったりする関係が大切にされています。また、本人の声を集めた語録集が作成される等本人から学ぶ姿勢を大切にされています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「そのひとらしい生活」を実現するために、一人ひとりの暮らしや思いが把握されています。アセスメント記録に工夫が見られます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	併設施設の理学療法士・作業療法士等専門職・関係者の助言やアドバイスを踏まえ、本人や家族の意向を反映した計画を計画作成担当者を中心に作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや3ヶ月毎に介護計画の見直しが行われ、本人や家族の意向を聞きながら現状に即した計画が作成されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じた通院の支援が行われています。また、緊急時には併設施設の医師や看護師による医療処置等により、生活の継続が支援されています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望によりかかりつけ医の受診が行われています。受診は家族同行が不可能な場合は、職員が付き添うよう支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対する「重度化対応・終末期ケア対応指針」が定められ、その指針を全体で共有されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮されたケアや言葉かけがされています。個人情報の取扱いについても内部研修により、職員の意識の向上が図られています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し個別性のある支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「住民集会」で利用者が何を食べたいのかを伺い、選択メニューなど献立が作成されています。ホームで収穫した野菜を食材に使用し、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を重視し、入浴したい時にいつでも入浴ができます。また、夜間入浴の希望にも対応できるよう職員の配置等も工夫されており、実際に夜間入浴が行われています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業や食事づくり、梅干し、干し柿、しめ縄づくり等利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っています。また、外出や地域行事への参加等楽しみごとを利用者と相談しながら行っておられます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添いながら、散歩や野菜作りなど戸外に出られるよう支援されています。また、併設施設で開かれる喫茶やパン屋に立ち寄られたり、毎月併設施設にやってくる町の移動図書館へ出かけて、本を借りる等されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、日が沈むころに戸締りを行い、出かけられる際にもさりげない声かけや一緒についていく等安全面に配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「災害時における協力に関する協定書」が地元地区との間で交わされ、マニュアルも整備されています。また、平成21年には、消防署、町消防団、地元地区と合同での火災予防訓練も実施されました。地元地区への協力も呼びかけられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格をもった職員が栄養バランスに気をつけ食事を提供されています。また、水分量の管理が必要な方には、水分摂取量を把握し、ゼリーなどで対応されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの物が置かれ、家庭的な雰囲気が保たれています。また、共用空間では、利用者の好みにあわせた音楽が流れ、リビングや廊下にはソファ等があり、利用者が自由に休めるよう配慮がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が持ち込まれたり、利用者本人がつくられた作品等が置かれるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされています。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームほうじょう
(ユニット名)	みやこ村
所在地 (県・市町村名)	鳥取県東伯郡北栄町土下123-1
記入者名 (管理者)	明里 佐代子
記入日	平成 21年 7 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の中でその人らしい生活を支援することにより安心した暮らしができています。また、地域住民と事業所との関係性の強化を図る。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念は見えやすい場所に明示し、目を向けるようにしており、職員はホームの運営理念を述べるができる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には家族会時や訪問時、広報誌で連絡している。地域住民には広報誌を配布したり、スーパーへの買物や地域への食事参加、イベント参加を行い理解に取り組んでいる。また、実習受入やボランティアも受け入れ案内している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買物、農園活動など行い、ホームに閉じこもらず、地域の人との出合いを大切にしている。犬の散歩の途中に立ち寄ってもらえている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区のどんと祭り、運動会、夏祭りや、校区の行事に積極的に参加している。また地元の地域女性の方々が読み語りやパッチワーク、喫茶を開き、入居者との会話が弾んでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践を地域の様々な研修会に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。実習生の受け入れも積極的に行っている。		外部講師を呼ぶなど、介護予防教室の開催時には、地域住民を対象に認知症に対する勉強会を行っている。認知症基礎講座で活かしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在行っていることを振り返り、評価、改善に努めるようにして、全職員に周知できるようにしている。又、改善点については十分話し合い改善計画に基づき取り組んでいる。		事前評価、勉強会等入居者の知恵袋を引き出し語録集を作成し活用する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた課題について話し合い、その意見をケアサービスの向上に活かしている。また前回の推進会議で取り上げられた検討事項について経過を報告し解決している。	○	委員よりの提案等参考に継続した取組みを心がけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の生活やサービスを折りに触れて伝えていると同時に、町の職員と入居者、事業所との交流をはかっている。常に連携を密にし地域密着協議会委員として参加し情報収集を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会に参加し職員の理解を深めた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に、拘束、虐待の無いケアを実践するため、施設内の研修にも参加し、防止に努めている。	○	常に身体拘束の対象となる具体的な行為11項目を確認し理解、浸透、遵守に向けた取組みを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は体験入居でホームでの生活を理解していただき、退居後の方向性など、家族、関係者と十分話し合い、不安にならないように対応している。リスクや重度化、看取りについての対応は詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	<p>入居後、顔なじみの介護支援専門員が訪問し安心した生活が送れるよう取り組んでいる。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>住民集会や面会時、また、ご意見箱で出た意見を運営に反映させている。運営推進会議では入居者代表が参加し、外部者へ意見を表せる機会がある。多くの利用者の意見を引き出す為に、ご意見週間を年4回実施している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月広報誌を発行し、生活の様子、預かり金、人事について報告している。面会時に話したり、通院時変わったことがあれば随時連絡する。必要であれば医師が説明する。コミュニケーションを深め、情報をいただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情では苦情解決委員会、外部委員を設置している。また公表し対応している。家族会で家族同士が意見を言い合えるようにしている。出された意見はミーティングで伝えケアに反映している。家族にアンケートを実施し公表し反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回全体会、管理会議で伝達、提起している。ミーティングや勉強会でも意見を聞いている。目標管理、その他個別面談を活用し提案できる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>遠方家族の訪問時の宿泊等確保している。又、老健の協力、夜勤専門をおく等、早出、遅出対応など外部状況を把握した勤務調整につとめている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔なじみの職員が対応できるように心がけている。異動時はダメージが最低限になるように努めている。馴染みの関係作りを重視し、人事異動に心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人研修、施設内、外部研修等医療についての医師よりミニレクチャア、ホーム内、施設内で行われる研修、施設外の研修も全員が参加できるようにしている。研修の報告は職員に伝達している。。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>中四国ブロック大会で事例発表した。GH協会による研修会、相互研修などを通じて、サービスの向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスに関するアンケートを行い、メンタル面の研修に参加した。。又法人や施設で、情報交換、交流会、親睦会、法人互助会活動も行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々が目標管理表を作成し、それに向かって取り組んでいる。</p>	<p>○ 評価を実施している。</p>
<p><b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面接を行い、入居者の生活状態、心身の状態を把握するようにしている。入居前にはグループホームでの生活体験も行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面談時、家族が求めている事を理解しどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を受ける中で信頼関係を築き居宅事業所とも連携しながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらったり、体験入居、ショート入居、知人の訪問、家族の面会、本人の希望を聞いて外出支援等、グループホームの生活、雰囲気になじんでもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に、調理や畑仕事(野菜作り)をする時には入居者が主体となり、職員が学ぶ場面をつくりお互い協働しながら生活している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報、共有に努め家族と同じような思いで支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や本人の誕生日には案内をしておき、来訪の機会を作っている。家族と共に行う外出や外泊の支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を拒むことなく事前に確認の上近所の人の面会、今まで利用してきた商店への買物、ふるさとめぐり、理美容店など、馴染みの人や場所との関係を大切にし、継続できる支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の様々な活動を入居者同士で誘い合い生活している。また入居者同士でコミュニケーションが取れるよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設老健入所後も入居者と一緒に面会に行き、行事のときは交流を持っている。併設の良さを出した交流を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。アセスメントを通して生活歴や希望、意向を把握し、個別のケアを心がけている。住民集会を設け、様々な意見を聞いて決めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気づきや会話の中で引き出したり、本人や家族、関係者から面会や面談時に聞き取りを行い、情報を膨らませている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活のリズムを重視し、出来ないことより出来ることに注目し、状態の変化を見逃さないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き併設老健のケアマネの意見も含めて課題となる事を家族と連携しサービス計画作成担当者を中心に全員で介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、グループホーム独自の様式を用いて3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。入居者の状況に変化があればその都度行っている。介護計画の見直しはカンファレンスで家族や各種専門職、また本人や家族の意向も聞いて介護計画に取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で変化や気づき、統一すべき事項は個人ケースファイルや連絡ノートに記入している。フォーカスチャートニングを取り入れ、わかりやすい記録を心がけている。必要に応じて、食事量、水分量、排泄などの記録もしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設老健を活かした取り組みや、ショート利用が出来るようにグループホームの多機能性を強化している。また、本人、家族の状況に応じて通院の支援を柔軟に行い、支援体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事の運動会、夏祭り、しめ縄、校区の音楽会、運動会に出かけている。広報誌も配布し情報を提供している。また、運営推進委員のメンバーとして民生委員との意見交換もしている。避難訓練時、消防の協力を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町の移動図書、民族資料館を利用したり、近くの社会就労センターへ行き、食事や交流を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員が運営推進会議に参加するようになり周辺情報や支援に関する情報を交換し協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の意向について確認し、記録に残し、受診の支援をしている。家族が同行不可能な場合は、職員が代行している。受診時の様子は伝え合っている。必要時には併設施設の医師の協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底を図っている。日々の関わりの中で職員の意識向上を図ると共に、入居者一人ひとりの尊厳を大切に言葉がけに努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員で決めたことを押し付けることはせず、複数の選択肢を提案して、どんな事でも本人が決める場面を作っている。 (入浴、飲み物、外出など)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせたケアの実践をしている。又、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は希望の理美容店や近くのカットサロンを利用して。個々の生活習慣に合わせた支援をし、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。着替えは選択肢が出来るように配慮し本人が決めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に入れ又、選択メニューも取り入個々に選んでもらう場面を作っている。ホームで収穫した野菜を食材に使用している。買物、食事作り、おやつ準備、片付けまで入居者と職員と一緒にやっている。ゆったりとした雰囲気の中で食事を摂り、職員は入居者と同じ食事をしている。状態に合わせたメニューで対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	いつでも飲みたいときに飲みたいものが飲めるように準備している。入居者がいつでも冷蔵庫を使用出来るようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄が日常出来るように排泄パターンをつかみ、個別に対応している。個々にあった声かけをしている。尊厳を守る排泄への取り組みに心がけている。	○	現在も継続中
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず入居者にその日の希望を確認し入浴している。また、仲の良い入居者同士が声を掛け合って入浴している夜間入浴(現在1名)も取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動中心とした声かけで生活リズムを作り、夜間安眠できるようにしている。一人ひとりの体調や表情、希望等を配慮してゆっくり休息が取れるよう支援している。また、寝つけない時には温かい飲み物を飲みながら会話する等配慮している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業(田植え、玉ねぎ、さつまいも)や梅干、らっきょ、干し芋、切干大根、干し柿、かきもち、ちまき、しめ縄作り等入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、外出や外食、地域の行事参加等の楽しみごとを入居者と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の力に応じて本人が小額を持って金銭管理をしている。又、買物するときは、本人に財布を持ってもらい支払いできるように支援している。出納帳は自分で記入できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添いながら、散歩や外出の機会を設けている。外食、喫茶にも出かけている。花見の時期には手作り弁当を持って出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさとめぐりに取り組んでいる。個々が故郷に帰ってみたい等の思いがある時は家族の協力も得ている。また足湯を利用したり、展覧会にも出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙が書けるように環境を整えている。電話はいつでも使用できる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るいまいさつを心がけ、面会時にはゆっくりと居室で過ごせるようにしている。又、面会者が自由に使用できる湯茶もあり、宿泊にも対応している。プライバシーに保護した上で家族はもとより、地域の友人、知人もたくさん尋ねてくる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会に参加し、意識を高めている。併設施設と一緒に委員会活動を行い、常にゼロを意識し、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず入居者が外出しようとする意思表示を見落とさないようにし、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者に目の届く場所でプライバシーに配慮しながら、リスクを事前に把握し安全に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わながら、保管すべきもの、入居者が使うときに注意すべきもの等に分けて管理している。夜間は刃物や危険物を鍵のかかる場所に管理し、必要時に提供している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合には、報告書を作成し、対策を立て、事故防止に取り組んでいる。マニュアルを作成し活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命訓練を受け全職員が対応出来るようにしている。緊急時のマニュアルを作成し対応ができるようにしている。定期的に夜間訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元地区との間に「災害時における協力に関する協定書」を結んでいる。各消防署機関(2消防署)、町消防団、地区自衛消防団と合同で火災訓練を実施した。地域の協力体制については、運営推進会議でよびかけ協力を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居後のアセスメントにより起こり得るリスクについて説明している。役割活動や外出によりリスクはあるが自由な暮らしの大切さの理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握している。毎日バイタルチェックを行い記録をつけている。変化等気づいたことがあれば直ぐに管理者に報告すると共に職員間で共有し対応にあたる。状況により受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用などケース記録に添付し把握している。内服には日付など記入し、誤薬、飲み忘れがないようにしている。本人の意志を尊重しながら無理のない範囲で支援している。毎月服薬についての勉強会を実施している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないよう、毎日、乳製品を献立の中に取り入れられたり、適度な運動が出来るようにしている。個別の排泄パターンをつかみ個別に対応している。寒天を使用した手作りおやつを取り入れている。便秘についての勉強会を行い予防と対応に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアの声かけは入居者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援に努めている。必要に応じて歯科診察を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を職員は把握し情報を共有している。GHに管理栄養士が在籍しており献立をチェックし栄養バランス、栄養摂取量を把握している。また、水分量を確保出来ない人についてはお茶ゼリー、コーヒーゼリーや好きな飲みもので対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、それに対応している。換気、うがい、手洗いの励行を行うことで予防に努めている。委員会活動で取り組んでいる。感染症予防物品を常時、ホーム内、公用車に設置している。予防の為に受診時にはマスクを着用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な材料を選ぶ事に心がけている。衛生管理マニュアルを作成している。毎月調理器具や台所の衛生チェックを常に衛生、清潔の保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設併設のためハード面ではどうかと思えるが、ソフト面(手作りの表札や玄関周りの装飾)で工夫している。玄関先に植物を置いたり、プランターで花や水稻を作り家庭的で親しみやすい環境作りを行っている。敷地内に菜園を作りナス、ピーマン、キュウリ、玉葱さつまいもを栽培している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型でなく、外観は家庭的ではないが、家庭に近づけるようにソフト面(手作りのもの)で工夫を凝らしている。季節感を取り入れる為に四季折々の料理やおやつ作りに工夫をしている。入居前に住んでいた状況と同じ空間作りをして居心地の良い場所作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや気軽に座れるソファコーナーを作り、冬場にはこたつでくつろげる空間を設け、ゆったりと生活できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるために家族に働きかけを行っている。現在使用している物品が個々の生活に定着して、居心地よく過ごせる場所となっている。	○	持ち込み制限はしていない。本人の為の必要物品については都度相談していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然に近づける事を基本に、定期的、又は、必要に応じて換気を行っている。温湿度計を置き、快適な生活が送れるようにしている。なるべく自然の風を入れるよう換気に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境作り				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されており、台所も使いやすい高さになっており、安全で自立した生活ができるようになっている。状態に合わせて見直し改善に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの目印は目線に合わせている。居室も入居者の好みののれんを掛けたり、表札をつけ、混乱しないようにしている。また、入居者からトイレ、居室の場所を聞かれた時はその都度案内している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い外周りの空間を活かして菜園を行ったり、ベンチ、プランターを置いて、入居者が活動しやすい環境作りをしている。ベランダを利用しソーメン流し、食事会をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①併設の良さを活かした施設運営（ハード、ソフト） 研修や医療の連携の充実
- ②委員会活動の活性化 15委員会によるサービスの質の向上
- ③事業計画に基づいた個人目標の管理と自己評価の実施
- ④5S活動の実施
- ⑤家族会 広報誌の発行（月1回）
- ⑥地域との連携により防災活動の実施
- ⑦地域の一員として地域活動に参加

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームほうじょう
(ユニット名)	れんげ村
所在地 (県・市町村名)	鳥取県東伯郡北栄町土下123-1
記入者名 (管理者)	明里 佐代子
記入日	平成 21年 7 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の中でその人らしい生活を支援することにより安心した暮らしができています。また、地域住民と事業所との関係性の強化を図る。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は見えやすい場所に明示し、目を向けるようにしており、職員はホームの運営理念を述べるができる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には家族会時や訪問時、広報誌で連絡している。地域住民には広報誌を配布したり、スーパーへの買物や地域への食事参加、イベント参加を行い理解に取り組んでいる。また、実習受入やボランティアも受け入れ案内している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物、農園活動など行い、ホームに閉じこもらず、地域の人との出合いを大切にしている。犬の散歩の途中に立ち寄ってもらえている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のどんと祭り、運動会、夏祭りや、校区の行事に積極的に参加している。また地元の地域女性の方々が読み語りやパッチワーク、喫茶を開き、入居者との会話が弾んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践を地域の様々な研修会に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。実習生の受け入れも積極的に行っている。		外部講師を呼ぶなど、介護予防教室の開催時には、地域住民を対象に認知症に対する勉強会を行っている。認知症基礎講座で活かしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在行っていることを振り返り、評価、改善に努めるようにして、全職員に周知できるようにしている。又、改善点については十分話し合い改善計画に基づき取り組んでいる。		事前評価、勉強会等入居者の知恵袋を引き出し語録集を作成し活用する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた課題について話し合い、その意見をケアサービスの向上に活かしている。また前回の推進会議で取り上げられた検討事項について経過を報告し解決している。	○	委員よりの提案等参考に継続した取組みを心がけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の生活やサービスを折りに触れて伝えていると同時に、町の職員と入居者、事業所との交流をはかっている。常に連携を密にし地域密着協議会委員として参加し情報収集を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会に参加し職員の理解を深めた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を中心に、拘束、虐待の無いケアを実践するため、施設内の研修にも参加し、防止に努めている。	○	常に身体拘束の対象となる具体的な行為11項目を確認し理解、浸透、遵守に向けた取組みを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は体験入居でホームでの生活を理解していただき、退居後の方向性など、家族、関係者と十分話し合い、不安にならないように対応している。リスクや重度化、看取りについての対応は詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	<p>入居後、顔なじみの介護支援専門員が訪問し安心した生活が送れるよう取り組んでいる。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>住民集会や面会時、また、ご意見箱で出た意見を運営に反映させている。運営推進会議では入居者代表が参加し、外部者へ意見を表せる機会がある。多くの利用者の意見を引き出す為に、ご意見週間を年4回実施している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月広報誌を発行し、生活の様子、預かり金、人事について報告している。面会時に話したり、通院時変わったことがあれば随時連絡する。必要であれば医師が説明する。コミュニケーションを深め、情報をいただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情では苦情解決委員会、外部委員を設置している。また公表し対応している。家族会で家族同士が意見を言い合えるようにしている。出された意見はミーティングで伝えケアに反映している。家族にアンケートを実施し公表し反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回全体会、管理会議で伝達、提起している。ミーティングや勉強会でも意見を聞いている。目標管理、その他個別面談を活用し提案できる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>遠方家族の訪問時の宿泊等確保している。又、老健の協力、夜勤専門をおく等、早出、遅出対応など外部状況を把握した勤務調整につとめている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔なじみの職員が対応できるように心がけている。異動時はダメージが最低限になるように努めている。馴染みの関係作りを重視し、人事異動に心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人研修、施設内、外部研修等医療についての医師よりミニレクチャア、ホーム内、施設内で行われる研修、施設外の研修も全員が参加できるようにしている。研修の報告は職員に伝達している。。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>中四国ブロック大会で事例発表した。GH協会による研修会、相互研修などを通じて、サービスの向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスに関するアンケートを行い、メンタル面の研修に参加した。。又法人や施設で、情報交換、交流会、親睦会、法人互助会活動も行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々が目標管理表を作成し、それに向かって取り組んでいる。</p>	<p>○ 評価を実施している。</p>
<p><b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面接を行い、入居者の生活状態、心身の状態を把握するようにしている。入居前にはグループホームでの生活体験も行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面談時、家族が求めている事を理解しどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を受ける中で信頼関係を築き居宅事業所とも連携しながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらったり、体験入居、ショート入居、知人の訪問、家族の面会、本人の希望を聞いて外出支援等、グループホームの生活、雰囲気になじんでもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に、調理や畑仕事(野菜作り)をする時には入居者が主体となり、職員が学ぶ場面をつくりお互い協働しながら生活している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報、共有に努め家族と同じような思いで支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や本人の誕生日には案内をしており、来訪の機会を作っている。家族と共に行う外出や外泊の支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を拒むことなく事前に確認の上近所の人の面会、今まで利用してきた商店への買物、ふるさとめぐり、理美容店など、馴染みの人や場所との関係を大切にし、継続できる支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の様々な活動を入居者同士で誘い合い生活している。また入居者同士でコミュニケーションが取れるよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設老健入所後も入居者と一緒に面会に行き、行事のときは交流を持っている。併設の良さを出した交流を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。アセスメントを通して生活歴や希望、意向を把握し、個別のケアを心がけている。住民集会を設け、様々な意見を聞いて決めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気づきや会話の中で引き出したり、本人や家族、関係者から面会や面談時に聞き取りを行い、情報を膨らませている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活のリズムを重視し、出来ないことより出来ることに注目し、状態の変化を見逃さないように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き併設老健のケアマネの意見も含めて課題となる事を家族と連携しサービス計画作成担当者を中心に全員で介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、グループホーム独自の様式を用いて3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。入居者の状況に変化があればその都度行っている。介護計画の見直しはカンファレンスで家族や各種専門職、また本人や家族の意向も聞いて介護計画に取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で変化や気づき、統一すべき事項は個人ケースファイルや連絡ノートに記入している。フォーカスチャートニングを取り入れ、わかりやすい記録を心がけている。必要に応じて、食事量、水分量、排泄などの記録もしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設老健を活かした取り組みや、ショート利用が出来るようにグループホームの多機能性を強化している。また、本人、家族の状況に応じて通院の支援を柔軟に行い、支援体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事の運動会、夏祭り、しめ縄、校区の音楽会、運動会に出かけている。広報誌も配布し情報を提供している。また、運営推進委員のメンバーとして民生委員との意見交換もしている。避難訓練時、消防の協力を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町の移動図書、民族資料館を利用したり、近くの社会就労センターへ行き、食事や交流を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員が運営推進会議に参加するようになり周辺情報や支援に関する情報を交換し協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関の意向について確認し、記録に残し、受診の支援をしている。家族が同行不可能な場合は、職員が代行している。受診時の様子は伝え合っている。必要時には併設施設の医師の協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底を図っている。日々の関わりの中で職員の意識向上を図ると共に、入居者一人ひとりの尊厳を大切に言葉がけに努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員で決めたことを押し付けることはせず、複数の選択肢を提案して、どんな事でも本人が決める場面を作っている。 (入浴、飲み物、外出など)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせたケアの実践をしている。又、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は希望の理美容店や近くのカットサロンを利用して。個々の生活習慣に合わせた支援をし、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。着替えは選択肢が出来るように配慮し本人が決めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に入れ又、選択メニューも取り入個々に選んでもらう場面を作っている。ホームで収穫した野菜を食材に使用している。買物、食事作り、おやつ準備、片付けまで入居者と職員と一緒にしている。ゆったりとした雰囲気の中で食事を摂り、職員は入居者と同じ食事をしている。状態に合わせたメニューで対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	いつでも飲みたいときに飲みたいものが飲めるように準備している。入居者がいつでも冷蔵庫を使用出来るようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄が日常出来るように排泄パターンをつかみ、個別に対応している。個々にあった声かけをしている。尊厳を守る排泄への取り組みに心がけている。	○	現在も継続中
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず入居者にその日の希望を確認し入浴している。また、仲の良い入居者同士が声を掛け合って入浴している夜間入浴(現在1名)も取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動中心とした声かけで生活リズムを作り、夜間安眠できるようにしている。一人ひとりの体調や表情、希望等を配慮してゆっくり休息が取れるよう支援している。また、寝つけない時には温かい飲み物を飲みながら会話する等配慮している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業(田植え、玉ねぎ、さつまいも)や梅干、らっきょ、干し芋、切干大根、干し柿、かきもち、ちまき、しめ縄作り等入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、外出や外食、地域の行事参加等の楽しみごとを入居者と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の力に応じて本人が小額を持って金銭管理をしている。又、買物するときは、本人に財布を持ってもらい支払いできるように支援している。出納帳は自分で記入できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添いながら、散歩や外出の機会を設けている。外食、喫茶にも出かけている。花見の時期には手作り弁当を持って出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふるさとめぐりに取り組んでいる。個々が故郷に帰ってみたい等の思いがある時は家族の協力も得ている。また足湯を利用したり、展覧会にも出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙が書けるように環境を整えている。電話はいつでも使用できる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るいまいさつを心がけ、面会時にはゆっくと居室で過ごせるようにしている。又、面会者が自由に使用できる湯茶もあり、宿泊にも対応している。プライバシーに保護した上で家族はもとより、地域の友人、知人もたくさん尋ねてくる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会に参加し、意識を高めている。併施設設と一緒に委員会活動を行い、常にゼロを意識し、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず入居者が外出しようとする意思表示を見落とさないようにし、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者に目の届く場所でプライバシーに配慮しながら、リスクを事前に把握し安全に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わながら、保管すべきもの、入居者が使うときに注意すべきもの等に分けて管理している。夜間は刃物や危険物を鍵のかかる場所に管理し、必要時に提供している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合には、報告書を作成し、対策を立て、事故防止に取り組んでいる。マニュアルを作成し活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命訓練を受け全職員が対応出来るようにしている。緊急時のマニュアルを作成し対応ができるようにしている。定期的に夜間訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元地区との間に「災害時における協力に関する協定書」を結んでいる。各消防署機関(2消防署)、町消防団、地区自衛消防団と合同で火災訓練を実施した。地域の協力体制については、運営推進会議でよびかけ協力を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居後のアセスメントにより起こり得るリスクについて説明している。役割活動や外出によりリスクはあるが自由な暮らしの大切さの理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握している。毎日バイタルチェックを行い記録をつけている。変化等気づいたことがあれば直ぐに管理者に報告すると共に職員間で共有し対応にあたる。状況により受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用などケース記録に添付し把握している。内服には日付など記入し、誤薬、飲み忘れがないようにしている。本人の意志を尊重しながら無理のない範囲で支援している。毎月服薬についての勉強会を実施している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないよう、毎日、乳製品を献立の中に取り入れられたり、適度な運動が出来るようにしている。個別の排泄パターンをつかみ個別に対応している。寒天を使用した手作りおやつを取り入れている。便秘についての勉強会を行い予防と対応に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアの声かけは入居者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援に努めている。必要に応じて歯科診察を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるために家族に働きかけを行っている。現在使用している物品が個々の生活に定着して、居心地よく過ごせる場所となっている。	○	持ち込み制限はしていない。本人の為の必要物品については都度相談していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然に近づける事を基本に、定期的、又は、必要に応じて換気を行っている。温湿度計を置き、快適な生活が送れるようにしている。なるべく自然の風を入れるよう換気に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境作り				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されており、台所も使いやすい高さになっており、安全で自立した生活ができるようになっている。状態に合わせて見直し改善に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの目印は目線に合わせている。居室も入居者の好みののれんを掛けたり、表札をつけ、混乱しないようにしている。また、入居者からトイレ、居室の場所を聞かれた時はその都度案内している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い外周りの空間を活かして菜園を行ったり、ベンチ、プランターを置いて、入居者が活動しやすい環境作りをしている。ベランダを利用しソーメン流し、食事会をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①併設の良さを活かした施設運営（ハード、ソフト） 研修や医療の連携の充実
- ②委員会活動の活性化 15委員会によるサービスの質の向上
- ③事業計画に基づいた個人目標の管理と自己評価の実施
- ④5S活動の実施
- ⑤家族会 広報誌の発行（月1回）
- ⑥地域との連携により防災活動の実施
- ⑦地域の一員として地域活動に参加